

大塚 敬節
矢数 道明
責任編集

世漢方医学書集成

62
香月牛山 二

名著出版
刊



南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 62

香月牛山(二)

第Ⅲ期
全40卷

昭和五十六年十月二十五日 発行

編者 大塚敬節

矢数道明

発行者 中村安孝

発行者 株式会社 名著出版

東京都文京区小石川三ノ十ノ五
電話東京(八一五)一二七〇番代
振替口座 東京七一二〇四九番

製版所 株式会社 日本写真製版社

印刷所 有限会社 伊藤印刷

製本所 辻本製本所

予約限定版



落丁本・乱丁本はお取替えします。

責任編集

大塚 敬節

矢数 道明

編集委員

山田 光胤

寺師 睦宗

大塚 恭男

矢数 圭堂

松田 邦夫

凡 例

- 一、本書第六十二卷「香月牛山(一)」には、『薬籠本草』を収録した。
- 一、本書は全て影印版によって収録したが、影印にあたっては次のようにした。
 - イ、新たに柱と頁数を付した。
 - ロ、底本を縮小し、一頁に半丁ずつ収めた。
 - ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。
 - ニ、本文中の蔵書印及び所蔵者による書き込み等は、全て省略した。
 - ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。
- 一、底本は次の通りである。
 - 薬籠本草 版本(享保十九年版) 三卷六冊(難波恒雄所蔵)
- 一、本書収録書目の解題については、第六十一卷「香月牛山(一)」に記した。

香月牛山二

目次

凡例.....七

藥籠本草

序.....五

目錄.....二五

卷之上.....三

人參.....三

黃芪.....九

白朮.....七

當歸.....一九

芍藥.....二三

生地黃.....三五

茯苓.....一七

茯神.....一五

青皮.....一三

沙參.....六五

甘草.....七九

蒼朮.....九五

芎藭.....二八

赤芍藥.....一三

熟地黃.....一四一

赤茯苓.....一五三

陳皮.....一五八

半夏.....一六五

厚朴	一七四	升麻	一七六
柴胡	一八六	前胡	一九八
卷之中			
防風	二〇五	羌独活	二二三
葛根	二一八	桔梗	二三一
枳实	二二四	枳殼	二二七
白芷	二三三	藿香	二三六
木香	二三八	紫蘇	二四六
蘇子	二五〇	大腹皮	二五〇
檳榔子	二五五	黄芩	二五九
黄連	二六三	梔子	二七四
連翹	二七六	縮砂	二八三
益智	二八七	白豆蔻	二八九
草豆蔻	二九三	香附子	三〇一
山檀子	三〇七	烏藥	三一
三棱	三三五	莪朮	三九
神麴	三三一	麦蘖	三三三

卷之下

天麻	三四	蔓荊子	三九
貝母	三二	天南星	三四
天門冬	三八	麥門冬	三四五
五味子	三五	山藥	三五八
蓮肉	三六	白扁豆	三六八
薏苡仁	三七	遠志	三七四
酸棗仁	三七九	山茱萸	三八二
木瓜	三八三	牡丹皮	三八七
地骨皮	三九〇	石菖蒲	三九三
附子	三九	乾薑	四一三
良薑	四〇	肉桂	四三
沈香	四二	丁香	四三五
薄荷	四七	荊芥	四四〇
香薷	四四四	麻黃	四四七
細辛	四五三	滑石	四五九
石膏	四六四	大黃	四七〇

三九七

黃蘗	四七七
沢瀉	四八七
車前子	四九二
知母	五〇三
牛膝	五〇〇
威靈仙	五〇七
茴香	五二三
常山	五三七
茵陳	五三一
菊花	五三五
鼈甲	五四一
桑白皮	五四四
桃仁	五五〇
乳香	五五六
五靈脂	五六〇
紅花	五六四
地榆	五六八

木通	四八三
猪苓	四九一
竜胆	四九六
秦艽	五〇八
杜仲	五〇四
釣藤鈎	五〇〇
藁本	五〇五
烏梅	五三八
金銀花	五三三
紫菀	五三九
穿山甲	五四三
瓜蒌	五四七
杏仁	五五三
沒藥	五五八
廷胡索	五六三
蒲黃	五六六
側柏葉	五七一

阿膠·····	五三
艾葉·····	五九
益母·····	五七
大棗·····	五四
後叙·····	五九
題万里神交·····	五七
万里神交·····	六三

藥籠本草

本草綱目

牛山香月先生著

樂以龍本草

平安

書舖柳枝軒梓行

昔神農氏著本草三卷古藥
三百六十五品以別上中下三等
唐宋以來增至一千五百餘種
已無不備矣方不備矣在生波
馬勃敗鼓之皮咸為世用明季
時珍李時集成本草綱目分為

十六部既詳且悉耐乎富矣奈
某品浩繁目不經見讀之者未
免有望洋之嘆憶仲淳繆君
用藥不及百種竟成一代名醫由
此觀之博而不精雖多無益
也余在丙午孟冬航海東歸幾